

被災地でのボランティアの活躍

8月9日の台風第9号により甚大な被害を受けた佐用町、宍粟市、朝来市にはたくさんのボランティアが支援に駆けつけました。9月末までに延べ約19,000人のボランティアのみなさんが、泥出し、土砂の撤去、家具の運び出しなどの作業に懸命に取り組みました。

また、安否確認や被災状況の確認、ボランティアと住民との引き合わせ等に自治会など地域団体が活躍されています。

阪神・淡路大震災からまもなく15年となりますが、兵庫県ではボランティアの精神や助け合いの精神が確実に根づいていることがうかがえます。



ボランティアのマッチングの様子



ボランティア受付風景



ゴミ等の搬出



家具などの運び出し



家屋内の片づけ



土砂等の撤去

若者の活躍

中学生や高校生、大学生など若い世代の人たちが、ボランティアとして大いに活躍しました。



泥出し



大学生らによる屋内のふき掃除



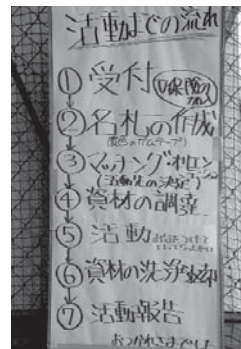
家財道具の整理運搬

=ボランティアに行った人の感想=

- 被災された方から感謝の言葉をいただき、とてもうれしかった
- 早く町が立ち直るように手助けしたい
- 被災時(阪神・淡路大震災のとき、平成16年台風23号の災害のとき)に多くのボランティアに助けられたので、今度は自分たちが力になりたい
- 泥は予想以上に重かった。高齢者の多い地域と聞いているが、この片づけ作業をお年寄りが続けておられたことに驚いた
- 作業はきつかったが、被災地のみなさんに少しでも元気になってほしいと思ってがんばった。

ひょうごボランティアプラザ等によるボランティア活動支援

- 災害救援ボランティア支援センターの設置
(平成21年8月10日～)
(設置主体は、ひょうごボランティアプラザ)
- 現地災害ボランティアセンター等の設置
(設置主体は、各市町社会福祉協議会)
佐用町(平成21年8月10日～)
宍粟市(平成21年8月11日～)
朝来市(平成21年8月11日～9月11日)



泥出しなどの緊急的な支援ニーズがほぼ収束したことに伴い、被災者からの生活相談、高齢者世帯などを中心とした見守り、訪問支援活動を行う「復興支援センター」等に移行
佐用町(平成21年9月1日～)
宍粟市(平成21年8月26日～)

- 県社会福祉協議会等による先遣隊等の派遣
現地災害ボランティアセンターの立ち上げ及び運営支援

- ボランティアバス等の運行
ひょうごボランティアプラザ、各市町社会福祉協議会等により延べ88日実施
※県地域協働課把握分(8月末日)

=被災地の住民のみなさんの感想=

- 濁流が家の中にまで流れ込み、泥だらけの状態に途方に暮れるばかりだったが、高校の先生と生徒さんたちが泥まみれで片づけを手伝ってくれ、元気が出てきた。
- 連日の復旧作業で精神的に参っていた。泥出しを手伝ってくれて本当にありがたかった。
- 落ち着いたら自分もボランティアに行きたいと思う。



※平成21年台風第9号災害への対応等についての情報はホームページをご覧ください。
http://web.pref.hyogo.lg.jp/ac02/index_ty.html